

市長の“こんにちは訪問”（第7回）概要報告

日時：平成26年10月3日（金）

午前11時30分～午後1時

第1部 子育てサロン「ちょっとひとやすみ」世話人会の活動見学

10月3日（金）に、新所沢東まちづくりセンターで活動している子育てサロン「ちょっとひとやすみ」の世話人会を訪問しました。この活動は、平成12年に実施した公民館主催事業の「子育て学級」に参加した保育スタッフが、事業終了後にもこの子育てサロンの世話人となって始めたボランティア活動です。子育てを地域で支援していきたいという思いに賛同した地域の主婦、母子愛育班、民生委員・児童委員等がスタッフに加わり、子育て中の親の不安や悩みに寄り添い、参加者同士の情報交換や交流できる機会を設定する等、子育てを地域で見守る活動を14年間続け、現在は11名のスタッフで企画・運営をしています。

この日の活動には、26組のお母さんと乳幼児が集い、ボランティアスタッフとの手遊び歌も交えながら、参加者同士で賑やかに交流していました。



第2部 世話人（ボランティアスタッフ）との懇談会

【藤本市長挨拶】

本日は、久しぶりに赤ちゃんとおふれ合え、赤ちゃんの持つパワーで癒されました。ここの子育てサロンは他とは異なり、ボランティアが独自に運営していると伺いました。公民館事業をきっかけにスタートした活動とのことですが、公民館の方が長年お世話になってきているのだと思いますので、改めて感謝申し上げます。

新所沢東地区では、この活動の外にもマタニティ教室や高齢者と幼児の交流の場等子育てに関する系統だった活動があるようです。これらの活動を通して子育て中のお母さん方が同じ様なお母さん同士で知り合うことができ、お母さんの大先輩から色々なアドバイスが受けられ、地域の中で温かく見守られながら安心して子育てできる環境ができているのは素晴らしいと思います。

【世話人】

多少の入れ替わりはあったものの同じ志を持ったメンバーで活動し続け、14年になります。我々の志や自主性を当時のここの（新所沢東）公民館職員が理解し、支援して下さったおかげで、今の活動に繋がっているのだと思います。「子育て中の誰もが気軽に立ち寄れる場所を提供できたら…」とお願いしたところ、直に動いてこの活動の立ち上げに協力して下さいました。我々の自主性は大切にしながら必要な時には直ぐに動いて下さったのです。それは、現公民館職員の方にも同じ様にして頂いており、助かっています。

参加するお母さん方にも、ここの子育てサロンの雰囲気伝わります。自分の娘が子育てを

始めた時に、他の公民館の“子育てひろば”にも色々と参加しましたが、ここは「こうして！」という様なお役所的な言葉が無いので、他の所との違いを参加者も感じるようです。

この世話人は、自主的に参加する方ばかりで、代表者も2年交代で皆が順番に務めるようにしています。皆が自主的に参加して上手くやっているの、見守っていて欲しいです。

【世話人】

この活動を立ち上げた当初は、資金が全く無くて困りました。ボランティア活動をしていく中で、会場の確保や印刷物の作成等は公民館に補助してもらえますが、運営活動費用が全く無いのでは困るということで、当時のテレビ埼玉が取り組んだ『子育てサロン運営資金補助事業』に申請し、その3万円を頂くことができました。

【世話人】

その当時は、我々の様な活動が埼玉県内でもほとんどありませんでした。県の社会福祉協議会の協力もあり、テレビ埼玉が出資してくれることになりました。それ以降は、公民館からの若干の補助があるものの、ほぼその3万円のみを資金として、世話人の手弁当で活動してきました。

【世話人】

公民館が用意してくださった用紙で、日本の年中行事をイメージした作品を手作りし、その良さを味わって頂きたく参加者に差し上げています。今はクリスマス用のカードを作成中です。

【世話人】

この様な創作活動は私達のボケ防止にもなります。七夕飾りが最も圧巻で、年々その飾りも進



化しています。頂いた本物の笹を皆で分担して作成するのですが、1本ずつペットボトルに入れると、生き生きとした笹と飾りの美しさに、皆さん凄く喜んでくれます。

【世話人】

この様に、この活動にはボランティアの手が必要です。多少年齢の高い世話人が多いですが、皆まだまだパワーのある方ばかりです。これからの社会は、我々の様な取り組み等で

若いお母さんやその子ども達を助けてあげないと、社会が成り立ちません。

【市長】

お母さん方からどの様な悩みを相談されますか。その中で、昔には無かった様な悩み等がありますか。

【世話人】

他の子と我が子を比較してしまい、悩んでいる場合が多いです。同じ位の月齢の子が集まるので、食べる食べない、大きい小さい、はいはいや寝返りができない、言葉が出ない等、気になるお母さんが多いようです。

【世話人】

ここへはネットで情報を得て来るお母さんが多いのですが、ここに参加できる人は幸せです。ここへ来られない人をどうしたら良いかが問題です。

【世話人】

当初は地域の民生委員・児童委員とは全く関係なく始まった活動ですが、自分が民生委員・児童委員でもあったので、民生委員・児童委員としてこの活動をどう活用したら良いかを考えました。そこで、この活動に参加できない家庭に対し、勧誘をするつもりで民生委員・児童委員として家庭に入っていました。

【世話人】

引きこもっているお母さん達を、こちらに来てもらうのが最大の狙いです。外にある看板の前まで来ても、怖気付いて帰ってしまう人もいます。



【世話人】

子育てサロンの活動としては、ここはこの辺りの地域でのハシリでした。この活動の前に公民館主催の『子育て学級』に参加していました。その頃は公民館事業に民生委員がお手伝いをしていましたが、ここの活動はその時とは異なり、主婦が始めた完全なボランティア活動です。

【市長】

この様な活動は、市内でここだけですか。

【世話人】

この活動を始めた当初には、ほとんどありませんでした。現在は、同じ様な活動が市内の全ての公民館で行われていますが、ほとんどが公民館の主催事業としてだと思います。他は愛育班か民生委員・児童委員が中心で係わっており、主婦が主体の完全なボランティア活動としているのはここだけで、ここは他の活動よりも枠が無いと思います。

【世話人】

反対に、ここの活動が上手く軌道に乗ってきた時に、民生委員や愛育班からそれぞれの組織の活動としたいと誘われました。

【世話人】

これだけ活動していると、地域で他の活動者の方々にも理解をして頂いています。七夕の飾り付けは大変なのですが、毎回、民生委員・児童委員が参加して色々手伝って下さいます。また、引っ越してきた若い世帯の方に、この活動を宣伝して下さってもいます。私はマタニティサロンにも関係しており、マタニティサロンの参加者のお母さんが出産した後に、こちらの活動に参加してもらえる様にしています。この様に、一つの活動が様々な活動に繋がっていると思います。

【世話人】

情報が届かないお母さんが意外と多いのです。今はインターネットでの情報入手がほとんどで、ここに来るお母さん達は、ほぼそれで情報を得ている様です。

地域の方々はこの活動を理解してもらえるようになり、地域の各町会長さんをお願いして、年1回程各町内会等でこの活動をお知らせして頂いています。

【世話人】

前回の活動も会場から溢れ出る程の参加者で、入りきれないことが頻繁です。その時は急きょ

別の部屋を公民館に用意して頂いて、2 会場で活動しました。分かれて活動すると、スタッフも手薄になるので困ります。使用している部屋は小さく、もう少し大きめの和室を利用できると有難いです。他の公民館はもう少し大きい和室が完備されていますが、ここは小さい和室が 2 つに離れてある状況です。毎回、参加者が多く活動に支障が出てきているので、困っています。

【世話人】

参加しているお母さん方も、我々スタッフがボランティアであるとは知らない人も多いかもしれません。子どもが成長してこの活動から巣立ってから、私達の事に気が付くお母さんもいますが、活動している中ではあえて宣伝してはいません。

【世話人】

全く別の場所で、自分の様なおばあさんを覚えていて挨拶してくれる母子がいると、本当に嬉しいです。自分は母親の介護でずっと忙しく、最近になってようやく大好きな子どもに関われるこの活動に参加できる様になりました。誘われて参加し始めましたが、この活動が楽しくて、誰かの為ではなく、自分の為に参加しています。

【世話人】

私は、子どもが大好きで、子どものパワーで元気がもらえるので、それを楽しみに活動しています。私たちは 10 年以上も活動していますが、スタッフの皆は好きだからこそ一生懸命やってき



ています。市役所の職員も、その倍は頑張っ頂きたいです。資金が無くなればバザーをしてお金を集め、活動のほぼ全てを手弁当でやり繰りしています。そのわずかなお金で用紙を購入して手作り品を作成してきました。私達はそれが苦では無いので、ここまでやってきましたが、市民の生活を守る職員の方々にはもっと頑張っ欲しいのです。所沢市をもっと良くしていきましょう。本日の様に我々の活動を見に来て、話を聴いて下さいましたが、それだけで終わりではなく、何か皆でやりましようと思ったいのです。我々も協力いたしますので、ぜひ未来に繋がる子どもを大事に育てていきましょう。

【世話人】

市は待機児童ばかりに目がいており、問題だと思っます。一人で子育てしているお母さんも大勢おり、その様な人達への支援や救済も必要です。本来の子どもの気持ちを考えれば、お母さんがある程度までは子どもの傍で見守っていることも大切です。学級崩壊の問題等は、ある程度成長した子どもの問題ですが、私は幼い頃の養育が鍵になっているのではと考えます。多様な子育てを認め、在宅で子育てをしている親への支援もお願いしたいです。

【市長】

私も、全く同じ気持ちです。

【世話人】

我々は、この活動をずっと続けていきたいと思っています。他にも我々と同じ様に活動をしている所もあるかと思っますが、ボランティアとして頑張っている人々がいることを認めて下さい。



何かの見返りを求めている訳でもなく、皆が協力し合って活動しています。この活動は人の手が無いと何も始まらず、人が手をかけるからこそ作品等にも心が伝わり、もらって喜んでくれるお母さん方がいるのだと思います。来年の七夕飾りを楽しみにしている方も大勢います。

【市長】

スタッフの方々は、手先が器用な方が多いのですね。

【世話人】

得手不得手があり、皆が得意な訳では無く、教わりながら助け合ってやっています。それだからこそ、味が出て上手くいくのかもしれない。

【市長】

先程の活動の中で、保健師からの健康上の注意事項を伝えていましたが、とても説得力のあるお話しでした。お母さん方が、驚いていたと思います。

【世話人】

3歳児健診で目の異常を訴える子どもが増えているという話には、私も驚いています。愛育班の部会で保健師さんが強く訴えていたので、とても気になりました。子どもがテレビやスマホの見すぎが原因の様で、「スマホに子守りをさせないで！」ということです。お母さん達は驚いていましたが、3歳でその様な状況になってしまうのは本当に心配です。

【世話人】

家で子育てしている親への支援を本気で考えて欲しいとお願いします。在宅のお母さん達は、子を保育園等にあずけられているお母さん達より悩みが多いと感じています。四六時中、一人で子どもを見ているわけですから。

【世話人】

その問題には、お父さん達の支援も必要です。たった一言「頑張っているね。」や「ありがとう。」等の言葉があると救われると言います。夫から妻にもっとねぎらいのメッセージを発信して欲しいです。子育ては夫婦それぞれの係わり大切で、どちらも頑張らないと上手くいきません。児童心理の分野では、母子の愛着の大切さを訴えています。子どもの精神面を考えると、親が仕事等で子どもと係わりが少ないと、問題が出てくるのではないのでしょうか。

【市長】

アメリカの子育て論では、子どもの自立性や独立性を育むことを主眼として、早い時期から親から離す環境を推進していますが、今ではそれも問題視されているようです。学者もその時の流れに左右され、時代によって考え方が変わっている様です。

【世話人】

私はこの活動を始めてまだ日が浅いですが、子育てが終わって手が空いたので、お世話になった地域の皆さんへ恩返しをと思って参加しています。皆と一緒に創作することは、お子さんにあげることも凄く楽しいですし、考えて作ることも楽しいです。季節感も感じながら活動できるの

で頭の活性化やボケ防止にもなっています。

【世話人】

私は、活動を始めて4年目になります。幼い子を持つお母さん達との出会いにより、今までと目線が変わりました。徐々に若いお母さんの顔見知りが増えて、充実した活動をしています。

【世話人】

この地区の子育て関連情報を掲載したマップを作成し、配布させて頂いています。希望者には、後日ご自宅まで民生委員・児童委員と一緒に訪問して届けています。この活動で出会い、またご家庭に訪問することで、関係がより親密になり、訪問時に話しが盛り上がる等、とても良い関係ができています。

【世話人】

このマップの様な子育て情報を、民児協、愛育班、その他の団体等にも提供しています

【世話人】

このマップは、引っ越してきたばかりの方には、子育てに必要な情報が集約されていてとても好評です。長年住んでいる人には必要ないかもしれませんが、地域で取り組んでいることを知ることでもできるで、その面では有効です。

【世話人】

私がここのボランティアを始めたのは、子育ての会に参加した時にここのメンバーに誘われたのがきっかけです。

私はここ以外でもボランティア活動に参加していますが、ここのスタッフは、“しなければならぬ”等とは強制しないので、進んで参加しようという気持ちになります。ボランティア活動するには仲間の輪がとても重要で、皆の気心が知れていないと活動が長続きしません。ここのスタッフの皆さんは本当に良い方ばかりで、そういう点で私からも感謝しています。



全てのお母さんと子どもが、この様な活動に参加できてはいません。愛育班等にも上手く協力して頂いて、様々な理由で参加できない不自由なお母さん方にも情報を届ける等、温かい手を差し伸べて欲しいと思います。

【こども未来部長】

お母さんが精神的な理由で困っている場合等には、養育支援という事業があります。この事業では、ご家庭を訪問し、育児の助言や支援をし、地域に繋いでいく様になっています。

先程、本日の活動の参加者から、地域の民生委員・児童委員から誘われてここに来るようになったと伺いました。この地域全体で、子育てを応援しているということがよくわかりました。

【世話人】

ここには、今まで数千人とも分からない母子が参加してきたと思います。初めに参加したお母さんは中学生や高校生になっていると思います。毎回、参加者の名前を記入して頂いてはおりますが、それで統計を取ったり、その後を確認したりしたことはありません。

【世話人】

ここに参加してから仲良くなったお母さん同士でサークルをつくって、活動しているとも聞いています。ここから、幾つかのサークルが生まれているようです。

【世話人】

活動に初めて参加する方がいる時は、その方が孤立してしまわない様にと、かなり気を使って接しています。

【市長】

参加者同士が仲良くなってくると、新しい方が浮いてしまうことがありますね。

【世話人】

ここに参加するお子さんは、1歳数ヶ月を過ぎて活発に動き回れる様になると、会場内でじっとしているわけにもいかず、他の赤ちゃんへの危険も出てくることから、徐々に参加しなくなります。その様な子どもと親の行き場が、今はあまり無いので困っています。ここの活動の次の段階のものがあると良いと思います。

【こども未来部長】

幾つかの保育園や児童館で、地域子育て支援事業として取り組んでいます。

【世話人】

この地域には、その保育園も児童館もありません。中学校区に1つずつ児童館を設置されている様で、この地区だとさくら児童館ということになりますが、ここからはとても遠くて通えません。前市長の頃からずっと児童館等の設置の要望は出していますが、全く通りません。児童館でなくても構いませんので、若い子どもが集まれる居場所があると良いと思います。

【市長】

本日は、ありがとうございました。地域をあげて子育て支援をする取り組みは大変素晴らしく感じております。これからも、様々なご苦労はあるかと思いますが、子ども達とそのお母さん方、そして地域全体のために、皆さんのお力をたまわりますようよろしくお願いいたします。

以上



「ちょっとひとやすみ」の世話人会の皆様、ありがとうございました！